



ロシアメソッド^ぶ

ロシアンメソッド専攻レッスン 体験記

新潟中央高校音楽科ロシアンメソッド専攻生に、1年間のレッスンを振り返り、感じたことを書いてもらいました。

先生がとても軽やかな音色をだして演奏してくださり、その音色を間近で聴くことができ、自分もこんな音が出せるようになりたいと思った。自分の表現の幅も広がり、もっと深い表現をめざそうと思えるレッスンだった。(1年生)

ロシアの先生の歌い方、音色の変え方、ペダリング、全てに刺激をもらっている。作曲家の意思を理解した上で、自分なりの良さ、自分自身はこのように演奏したいというところまで考えられるようになった。(2年生)

自分だけで解釈するのではなく、作曲家がどのような意図で曲を作ったのかを読み取り、表現することが大切だと感じた。モスクワの先生からのレッスンを通して、楽譜に書いてあることを注意深く見るよう心がけた。強弱の面では特に響きのある小さい音を出すことに苦戦した。ピアノを演奏するにあたって、どんな曲でも響きは大切なので、学んだことを生かしてこれからも頑張りたい。(2年生)

一年間のレッスンの中でレガート奏法について教えていただいた。すごく難しいが、それだけ大切なことだと感じ、少しずつ理解することができた。(1年生)

ベートーヴェンのソナタを見ていただいた。和音の一つひとつの音をオーケストラに例え、すべての音を意識して弾くことを学んだ。それまで、和音のソプラノしか聴いていなかったのが、すべての音を意識することで、より丁寧な和音を弾けるようになった。(2年生)

メロディーの歌い方や良い音が出る指の使い方を学んだ。フォルテを出す時に、ただ大きいだけでなく、やわらかい響きも出せるようになった。またイントネーションのつけ方を学び、メロディーの抑揚や表現がわかるようになった。いろいろな曲でも応用できると思った。(2年生)

1年生の時よりも先生方がいらっしゃる回数が増え、曲をより深く教えていただくことができた。また音楽ホールでのレッスンが多かったので、ホールでの音の響き方を感じながらレッスンができ、とても有意義な時間を過ごすことができた。(2年生)

ショパンのノクターンをレッスンしてもらったが、ピアノやフォルテにも様々な種類があり、使い分けることが大切だということを知った。ただ強弱をはっきりさせるだけでなく、するどいフォルテや柔らかいフォルテなど、その曲やフレーズにあった表現をしっかりと考えて弾きたい。ピアノをもっと頑張りたいと思った。(2年生)

モーツァルトの奏法について詳しく学ぶことができた。モーツァルトのスタッカートやフォルテの時の輝かしさなど、弾き方で曲の印象が変わることを実感した。短期間で同じ曲を2回レッスンしてもらったが、自分の弾き方が一週間でとても変わったことを印象に残っている。(2年生)

